

# 大豆管理情報 (第2号)

## 1 気象経過

### (1) 気温

6月の平均気温は、21.4℃(平年差+0.5℃)、7月上旬は23.7℃(平年差+0.3℃)と平年並だった。

### (2) 降水量

6月の降水量は、206.0mm(平年比113%)と平年より多く、7月上旬は33.5mm(平年比38%)と平年より少なかった。

### (3) 日射量

6月の平均日射量は、17.1MJ/m<sup>2</sup>/day(平年比106%)と平年並、7月上旬は16.4MJ/m<sup>2</sup>/day(平年比110%)と平年より多かった。

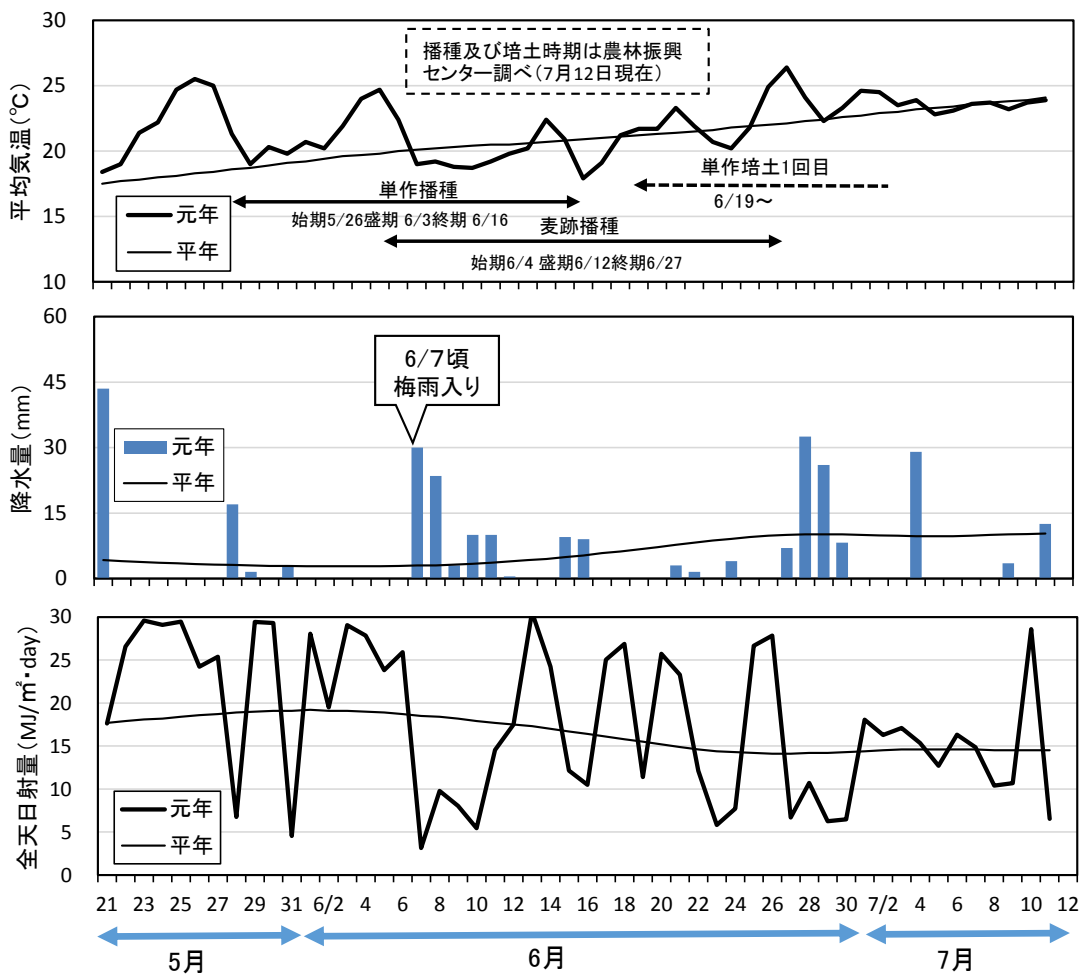


図1 播種以降の気象経過 (富山地方气象台)

## 2 生育経過（生育観測ほ）

### (1) エンレイ

①単作は、主茎長 32.7cm、本葉葉数 6.9 葉、一次分枝数は 1 株あたり 0.2 本であった。

平年に比べ主茎長はかなり短く、本葉葉数、一次分枝数はかなり少なくなっている。

②麦跡は、主茎長 33.8cm、本葉葉数 5.5 葉で、一次分枝数は 1 株あたり 0.0 本であった。

平年に比べ主茎長は長く、本葉葉数は並だった。一次分枝数はほとんど発生が見られていない。

③開花はまだ確認されていない。

### (2) シュウレイ

①主茎長 34.0cm、本葉葉数 4.9 葉、一次分枝数は 1 株あたり 0.1 本であった。

表 1 大豆生育観測ほ調査結果（7月12日現在）

			播種月日 (月/日)	栽植本数 (本/m <sup>2</sup> )	生育調査(7月12日)			開花期
					主茎長 (cm)	本葉葉数 (葉)	一次分枝数 (本/株)	
エンレイ	単作	R元	5/29	17.4	32.7	6.9	0.2	-
		H30	5/31	17.3	50.1	8.7	0.5	7月18日
		平年	5/30	16.1	50.6	8.9	0.9	7月17日
		平年比(差)	-1	108	65	-2.0	-0.7	-
	麦跡	R元	6/3	17.3	33.8	5.5	0.0	-
		H30	6/9	16.9	31.7	5.8	0.2	7月23日
		平年	6/10	16.7	29.2	5.8	0.4	7月24日
		平年比(差)	-7	104	116	-0.3	-0.3	-
シュウレイ	R元	6/8	15.1	34.0	4.9	0.1	-	
	H30	6/8	15.3	31.6	5.6	0.2	7月24日	
	近年	6/6	15.3	40.0	6.8	0.6	7月23日	
	近年比(差)	2	99	85	-1.9	-0.6	-	

注1) 調査ほ場数: 単作エンレイ(5ほ場)、麦跡エンレイ(3ほ場)、シュウレイ(単作1ほ場、麦跡2ほ場)

注2) 本葉葉数は、H22以降は0.5葉刻み、それ以前は0.1葉刻みの測定による平均

注3) 平年値はH21~H30、シュウレイの近年値はH22~30の平均

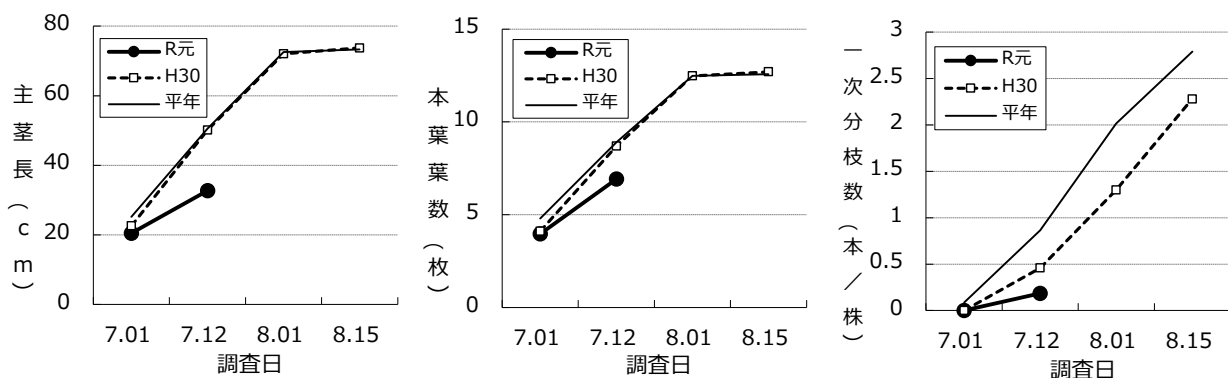


図 2 単作エンレイの生育の推移

### 3 当面の技術対策

- 降雨後に水がたまっているほ場が見られることから、停滞水を除去するため、**額縁排水溝や排水口の点検、手直しを行い、ほ場の排水に努める。**
- 生育量を早く確保するため、**2回培土を実施していないほ場では晴れ間をみて速やかに行う。**
- 培土のみで雑草の発生を抑えきれない場合は、草種等に応じて茎葉処理除草剤を適切に使用する。

#### (1) 排水の徹底

～培土実施に向けた降雨後のすみやかな排水～

- ・降雨後の排水や畦間かん水時の入排水をスムーズにするため、**うね間と額縁排水溝との連結や排水口の掘り下げを確実にを行う。**枕地は、水が停滞しないように畦を切って連結する。
- ・降雨の翌日に畦間に水が溜まっているほ場では、**停滞水を除去するため、排水溝の手直しを行う。**



うね間と額縁排水溝を連結し、排水を促進

#### (2) 2回の培土を実施

～生育促進と雑草対策～

- ・生育量を早く確保するため、**2回の培土を実施していないほ場は、速やかに行う。**また、株元まで土をかける。

#### (3) 早めの雑草対策

～帰化雑草は早期発見・早期防除が重要～

- ・雑草の発生が多く培土のみで雑草の発生を抑えきれない場合は、雑草の種類や葉齢に応じて茎葉処理除草剤等を散布する(表2)。
- ・**難防除雑草(帰化雑草等)の発生がみられるほ場では、雑草が小さいうちに(帰化アサガオ類の場合はつるになる6葉期前)に防除を徹底する。**また、防除後も再度雑草が発生することがあるので、発生状況に応じて、継続的に防除を実施する。
- ・ほ場周辺(畦畔、農道等)で難防除雑草の発生がみられる地域では、発見次第、直ちに防除(除草剤散布、地際からの刈取り)する。



4葉期頃のマメアサガオ  
(写真はバサグラン散布2日目)

#### (4) 開花期頃からの畦間かん水

～莢数確保による青立ち発生防止～

- ・開花期頃から水分ストレスは、乾燥に弱い大豆の根粒菌の活性を低下させ、稔実莢数や百粒重減少、莢先熟やちりめんじわ粒の発生を助長する(図3)。

このため、**開花期頃から3日以上晴天が続いた場合は、土壌の乾き具合に応じて畦間かん水を行う。**

- ・かん水は短時間で実施し、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を止めて速やかに排水する。

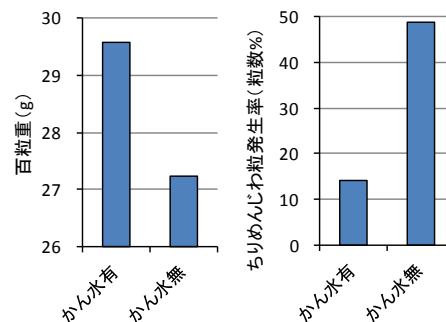
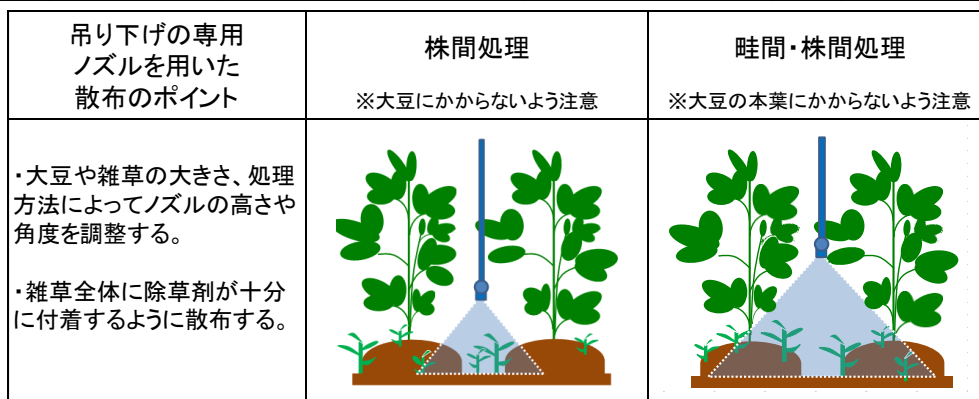


図3 かん水の有無が百粒重やしわ粒の発生に及ぼす影響 (H24:富山農振セ)  
注) かん水有区: 2回かん水実施

表2 大豆の生育期処理除草剤

種類	対象雑草	除草剤名	使用方法	使用時期			使用回数	除草効果についての留意点	
				時期	雑草の生育ステージ等	収穫前日数			
選択性除草剤	1年生イネ科	ナブ乳剤	雑草茎葉散布	全面散布	雑草生育期	イネ科雑草3~5葉期	30日前まで	1回	・適用雑草としてスズメノカタビラを除く。 ・広葉雑草及びカヤツリグサ科には効果が期待できない。
		ワンサイドP乳剤			雑草生育期	イネ科雑草3~5葉期	60日前まで	1回	
		ポルトフロアブル			雑草生育期	イネ科雑草3~10葉期	30日前まで	1回	
	1年生広葉	大豆バサグラン液剤		大豆2葉期~開花前	雑草の生育初期~6葉期	45日前まで	1回	・アカザ科、ヒユ科、トウダイグサ科、ツユクサ科の雑草には効果が劣る。 ・イネ科雑草には効果がない。	
非選択性除草剤	1年生雑草	ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉兼土壌散布	畦間処理	雑草生育期	-	前日まで	2回	・非選択性除草剤なので、大豆にかからないように十分注意する。
		28日前まで							
		バスタ液剤		畦間・株間処理	大豆5葉期以降雑草生育期	-	28日前まで	3回以内	
	1年生広葉	タッチダウンiQ	雑草茎葉塗布	大豆着莢期以降雑草生育期	-	7日前まで	2回	・専用器具を使用する。 ・塗布処理場所は茎とし、大豆の草冠より上の10~15cm部分に行う。	



(5) 適期の病害虫防除 ~ほ場を巡回し、早期発見、適期防除~

- ・ウコンノメイガ：生育が旺盛で葉色が濃いほ場で発生が多く、多発すると小粒化し、減収する。防除要否基準に従い、幼虫による葉巻の発生量を確認し、必要に応じて8月上旬まで（若・中齢幼虫期）に遅れず実施する。

〔防除要否基準〕7月6半旬の大豆1株当たり平均葉巻数：6個以上

- ・葉焼病：発生が認められたら、Zボルドーなどで防除する。なお、シュウレイについては、7月下旬頃に予防散布を実施する。

強風雨で蔓延するため、台風等により葉が損傷した場合は、速やかに防除を行う。